



6月11日(土)に本校にて、ボルネオスタディツアーの説明会が開催されます。昨年開催された第1回スタディツアーには海城生も参加し、多くの事を学びました。スタディツアーの説明会には東京大学生産科学研究所の沖大幹先生も参加され、水文学的観点を踏まえ、世界の水問題について講演をさせていただきます。興味がある方はぜひとも参加してください。

質問などは生物科関口まで。

2016年 冬休み実施

第2回 ボルネオ島・スタディツアーのお知らせ(中高生対象)

ボルネオ島はアジア最大の熱帯雨林をもち、そこに暮らす生物の多様性は非常に高く世界有数であるといわれています。テナグザルやボルネオゾウなど数多くの固有種が生息し、野生のオランウータンの生息域でもあります。しかし現在では、これら動植物の多様性が、大規模プランテーションの開発等の影響により失われようとしています。多くの生物が絶滅の危機に瀕しており、自然と共生しながら伝統的な生活を送ってきた地元住民にも様々な影響を与えています。



このプランテーション開発は、私たちの生活と切り離すことのできないカップ麺やスナック菓子や冷凍食品、さらには洗剤や化粧品などに利用されている植物油(パーム油)の大量生産が主な原因です。一方でボルネオ島では保全活動や植林活動、環境教育活動など様々な活動が行われ、日本でも多くの企業や団体が協働しています。

現在の地球は、貧困や紛争、環境問題など、様々な課題を抱えています。しかし私たちの生活とそれら地球規模の問題が、一体どのように繋がっているのかを実感することは容易ではありません。

地球の未来を創っていく中高生のみなさんには、地球の現状、保全活動現場の体験、現地の同世代の生徒との交流を通じ、地球の未来を考えるきっかけとしていただきたいと思います。これが一度に経験できる場所、それがボルネオ島にあります。まずは説明会にご参加下さい。

●●スタディツアー説明会●●

中高生が様々な学校から集まることを期待しています。第1回ツアーでも、何人もの生徒が知り合いのいない中で参加を決意しました。まずは気軽に、説明会に参加をしてみてください。

日程：平成28年6月11日(土) 15:00-18:00

会場：海城中学高等学校

第一会議室

内容：①東京大学の沖大幹先生による講演

沖大幹 教授 東京大学生産技術研究所

今回のスタディツアーは、水循環システムの研究における第一人者で、水を軸とした千年持続学の研究をされている沖大幹先生よりご助言を頂いています。地球上の様々な問

題にどう向き合っていくべきなのか、沖先生の視点をお話いただきます。

- ②スタディツアーの概要・背景
- ③ボルネオ保全トラストジャパンの取り組み
- ④スタディツアーの行程
- ⑤今後の、事前学習についての説明
- ⑥質疑応答

申し込み：申し込みの手続きは不要です。当日、スタディツアーに参加予定生徒の保護者の方も同席できます。

●●スタディツアー概要●●

日程：平成28年 12月23日(金)-12月30日(金)

費用：約20万円

参加資格：中学生・高校生であり、上記のスタディツアー説明会に参加していること。

主な活動場所：ボルネオ島 サバ州 西部地区

主な活動：現地ホームステイ/現地学生との交流/植林活動/デラマコ商業林保護区の視察(熱帯雨林の体感・FSC 認証林の見学)/プランテーション農場の見学/キパンディ・バタフライパーク(昆虫標本館、植物園)の見学・昆虫のナイトトラップ/ロッカウィ・ワイルドライフ・パーク

活動(参考)：①ボルネオ保全トラストジャパン公式サイト「<http://www.bctj.jp/>」

②ボルネオ島に関するWWFの報告

「<http://www.wwf.or.jp/activities/2014/10/1228221.html>」

問い合わせ：ボルネオ保全トラスト
ジャパン (BCTJ) 事務局

メールアドレス： info@bctj.jp

問い合わせの際、学校名とお名前のご記入をお願いいたします。

参考 沖大幹先生の最近の書籍

<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/>
<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/Info/WF2016/>

東京大学
na Utsunomiya Kaku

『水の未来——グローバルリスクと日本』
2016年3月18日刊行

読んだ悲観論でもなく、危険な楽観論でもなく

水の未来
沖大幹

人は死なないためだけに生きているわけではない

水は 気候変動対策 エネルギー 食料の鍵

環境問題の深刻化が国家間紛争をも招くのか、日本に波及するグローバルリスクの中で最も注目される水問題への取組は、エネルギーや食料の安全保障、気候変動への適応策を達成する鍵である。「ウォーターフットプリント」「仮想水」を手がかりに問題を明らかにし、悲観論に陥ることなく、持続可能な未来を構築する道を探る。

- なぜグローバル大企業は水や環境の保全活動に熱心なのか？
- 100億人の水と食料とエネルギーを供給できるのか
- 二度目の恩恵とは？
- 気候変動への適応策、持続可能な開発目標からバリエーションまで。

グローバル関係の締め切りのお知らせ

★イングリッシュキャンプ(中2・3・高1)

6月11日(土)

★カナダ短期留学(高1・2)

6月27日(月)

★シリコンバレーのプログラミングスクール創業者がやってくる

6月9日(木)

前号でもお知らせしましたが、「プログラミング教育」は、単にプログラマーを増やそうというのではなく、思考力を養う教育として注目されています。是非この機会に本場のプログラミング教育に触れてみましょう。